

【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】^{まえだ}前田^{つねき}常貴（兵庫県神戸市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
北陸193号	約5.8ha	705kg/10a	220kg/10a（486kg/10a）※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営（常勤：本人、農繁期の期間雇用（兄弟、知人等））
- 経営面積（約6.5ha）の90%が飼料用米

【作付品目】

- ・ 主食用米：コシヒカリ 約0.2ha
もち米 約0.3ha
- ・ 飼料用米：北陸193号 約5.8ha
- ・ 施設栽培：いちご 約0.3ha



【取組のきっかけ】

- 効率的な販売先を確保できれば、主食用米より飼料用米に取り組んだ方が経営的に優位と考え、平成28年産から飼料用米の取り組みを開始。
- 取組当初より、多収であり耐倒伏性にも優れている北陸193号の導入を検討したが、種粳が入手できなかったことからモミロマンにて取り組み、令和元年産以降、インターネット等により入手した北陸193号に品種を変え取り組みを継続。

兵庫県

神戸市（西区）



【取組概要】

- 生産面の取組として、当初は疎植栽培を行っていたが収量が上がらなかったことから、密植、太植え栽培に変更し、単収増に繋げている。また、施肥については追肥等は行わず一発肥料により作業の省力化を図っている。
- 病虫害等防除については苗箱防除のみで、雑草防除は定植時の同時散布により省力化を実施。
- 出荷契約先の近隣の飼料会社よりフレコンの提供があることから、包装容器代の削減、また、自己搬送により運搬経費の削減にもなっている。
- 飼料用米の収量を上げることで、主食用米よりも収入増となっている。また、自らの経営面積を主食用米よりも収穫の遅い飼料用米に特化したことで、地域の主食用米の農作業を受託することで収入増に結びついている。
- 耕畜連携による堆肥散布について、現状は1ha未満であることから、今後、拡大していきたい。